

常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月9日(金)

その2号

◇ 学習発表会に向けて

10月に入り、めっきり冷え込んできた。同時に、学校を取り囲む木々の色が、一斉に秋色を帯び始めた。ついこの前までは深緑一色だった木々があっという間に変化していく。全く経験はないが、目に映る様々な色で彩られた常磐の山に、一句詠んでみようかという思いさえ湧いてくる。

しかしながら、10月上旬であるにもかかわらず、遅生まれの蝉の声が聞こえる。常磐生まれの蝉の寿命は長いのではないかと錯覚するほどだ。

さて、昨今の冷え込みについては、涼しさを感じる時期を一気に乗り越したような感覚である。さすがに暑がりの自分も長袖の上着を引っ張り出してきた。

特に朝の冷気は、自宅と学校では大きな違いを感じる。上(かみ)の安戸や新居、小丸、大柳ではさらに冷え込みは厳しい。町中の学校では、この時期に検討のよしも無いが、手袋の対応もしていく必要がある。

学校では、5日(月)に行われた「全校体育・ミニ運動会」以降、2週間後の24日(土)に開催する「学習発表会」に向けて各学級が一斉に動き出した。

本来であれば、1学期の5月に運動会を行い、夏休みに担任が準備を行い、2学期開始から時間をかけながら子供たちを方向付けて演目を醸成させて発表につなげるのであるが、今年はそうもいかない。時期については分かっていたことではあるが、担任はいつ準備をしたのだろう。さらに、子供たちもその気になっている。本校の担任たちの手腕は、本当に大したものである。

例年に比べれば準備期間の少ない発表となる。よって見応えはあまりないかもしれないが、それは二の次、三の次、四の次。子供たちが教室で学ぶだけでなく、普段一緒に過ごす学級の友達と一緒に、「同じ目標をもって」「苦勞しながらも一緒に作り上げる」ことが大事なのである。これが、今後の人生を生き抜いていく「生きる力」となるだろう。そして、「全校体育」で子供たちが見せた澆漑とした動き、表情こそ大切であり、やはり行事で子供たちは自ら成長するのである。

今年度は「学芸会」から学習の成果を表現する「学習発表会」に変更して開催する。参観者も保護者に限定し、コロナ感染症防止対策を施して開催する。来賓の皆様や学区の皆様をお招きできないのは残念であるが、ご承知いただきたい。

「学習発表会」の成果は、その後の子どもたちの姿で確認していただけたらと思う。

常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月23日(金)

◇ 「求めてはげむ＝努力」と「支援」

◆児童の努力

長放課や昼放課に校舎に響く音がある。太鼓の音は日を増して力強くなり、鍵盤ハーモニカの音色はきれいなハーモニーを奏でるようになった。最近では、始業前にも太鼓の音が聞こえてくる。そう、鼓笛隊で太鼓とハーモニーキーボードを担当するのは5・6年の上級生、鍵盤ハーモニカの主体は4年生だ。

数名の児童による鼓笛の自主練は、今に始まったものではない。ずっと前からやっている。休憩の時間を練習に充てているのはすごいが、きっと演奏することが好きで、上達の実感が得られているのだろう。それでも教師の指示ではなく、自主的に練習をしているところに大きな価値がある。さらに、学校でなければできない練習があることを児童たちは知っているのだろう。音の「合わせ」である。「学習発表会」のもう少し先。児童たちの発表の場は創立120年式典である。

◆教師の支援

24日(土)に迫った「学習発表会」に向けて、学校の雰囲気は発表会一色かと思われがちだが、そうでもない。確かに時間割の変更はあるが、発表会の練習一辺倒でないところがよい。算数や国語、英語活動などの授業もしっかり組まれている。姿勢を正して授業に臨む教室での学びがきちんとある。

行事に向かうにあたり、日課の変更はやむないが、大切になってくるのが日課のバランスである。何かに特化してしまうと、それを終えた時の回復が難しい。教師も子供たちも気が抜けやすく、子供たちの気持ちもふわふわしがちになる。行事で大切なのは、生活のリズムを日常や通常に戻すことであり、そのことも十分心得ながら、各担任が工夫して日課を組んでいることが頼もしい。

こうした各担任の学級経営を見ていると、新型コロナ対応で学芸会を「学習発表会」に変更したこともいい方向にはたっていると捉えることもできる。

そんな中でこちらの予想を超えたことが一つある。5年生の活動である。総合的な学習と理科の学習のクロスカリキュラムで5年生は学校の池「ギョギョランド」の清掃に取り組み、池の水は見違えるほどきれいになった。学びはここにとどまらず、経年により彩色が薄らいだ「ギョギョランド」の看板を塗り直すということになる。『ギョギョランドで、掃除の他に何かやりたいことはある?』との担任からの問いかけに児童たちが応えたのである。早速、図工や総合的な学習の時間を使って制作に取り掛かった。特筆すべきは、学習発表会の練習やおかざきっ子展の作品制作と並行して行った(行わせた)ところにある。

学びに大切なのは、子供の意欲の見極めとタイムリー性である。ここしかないというタイミングがあるのだ。看板についてはまさにそう。忙しさの極みであるがこの時期しかないのだ。やりくりして何とか実現させる担任の心意気が見えた。



常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月23日(金)
その2号

◇ 明日は学習発表会

学習発表会の演目および日程は、以下のとおり。

- ① 8:45～ 9:00 <1・2年生> ①1年生朗読劇「サラダでげんき」
②2年生朗読劇「ニャーゴ」

※来場者入れ替え.....

- ② 9:30～ 9:40 <5・6年生> ③伝統芸能「常磐獅子」

※来場者入れ替え.....

- ③ 10:00～10:15 <3・4年生> ④3年生「リコーダー演奏」

⑤4年生「篠笛演奏」

⑥3・4年生合同

朗読劇「モチモチの木」

⑦3・4年生合同合唱

※来場者入れ替え.....

- ④ 10:45～11:00 <5・6年生> ⑧5・6年生合同合唱

⑨5・6年生合同英語劇

⑩5・6年生合同合奏

ごらんのとおり、演目はバラエティーに富む。

特徴的なのは、まずは5・6年の英語劇。学習指導要領の改訂によって小学校英語が必須教科となり、それを演目に組み入れた。時勢に対応した新しさがある。

そして伝統芸能「常磐獅子」。獅子舞の演舞を篠笛の音色で彩る。負担軽減を考慮して演目から外すことも考えたが、子供のやりたい気持ちと教師のやらせたい思いから、コンパクトな形での発表に結びつけた。「常磐獅子」に加われなかった4年生は独自に「篠笛演奏」で対応し、次年度以降につなげていく形を取った。

見逃せないのが、演目が10にわたるといふ演目数の多さといえよう。

発表時間は短めといえども、中学年の3・4年生はそれぞれ3演目、高学年の5・6年生は4演目と複数をこなす。学年が上がるにつれて内容もレベルアップする。負担などみじんも見せず、意気揚々と発表の準備を行う子供たちには、たくましさを感じるとともに、どこまでも伸びる無限の可能性を感じてやまない。

さらに学習発表会の秘密兵器がある。教育委員会の取り計らいによって全児童に配付した「マウスシールド」である。これが「発声」と「歌唱」を可能にした。発表する児童と観客席との距離はかなりあるが、その点をご理解いただきたい。保護者の皆様には、ぜひ学校に足を運んでいただき、学校での日々の学びの成果と精神的・人間的な成長を発表する子供たちの姿から感じ取っていただきたい。

常磐東小学校 校長だより

常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月30日(金)
その1

◇ 校歴を紐解く④【3本の橋】

児童昇降口前からグラウンドを望む。手前は希望の塔の少女像。
※移転新築記念碑 (S62)



山は秋色。最近、山を彩る茜色が日を追うごとに深みを増してきた。流石に香嵐溪とまではいかないが、身近にある景色の変化で季節の移り変わりを実感できるのは幸せである。個人的には、人でごった返す香嵐溪よりずっと好きである。

さらに陽が傾くと、西日が手前の山で遮られる。すると、山がすっぽりと日陰に収まり、西日が東名青木橋のみを照らす。



写真では分かりにくいかもしれないが、「橋が光る」のである。

西日がオレンジ色を醸し出し、白熱電灯のように優しく光る。とても美しい。

はじめは違和感を覚えた無機質な人口造成物に感じた橋が、今ではすっかり自然に溶け込んでいるように見えるから、不思議である。

橋と言えば、学校前の青木川にかかる二本の橋がある。
正門前が「よねやま橋」。東側が「かなえ橋」。
この2本の橋の間が「せせらぎの広場」である。
※青木川河川敷



「せせらぎの広場」の造成は、第24代校長の荒木俊夫先生（在任H9.4~H13.4）の時代に行われている。記録写真によれば、平成10年には原型が完成されているが、平成12年の記録にも改修工事の記録がある。

現在と比べると敷石の数や形状が異なることから、水の流れ等を考慮して数年にわたって改修が行われたことが分かる。

「せせらぎの広場」とは、うまく名付けたものだ。この2つの橋の間のみ、はっきりと「川のせせらぎ」が聞こえる。敷石の絶妙な配置によって水の流れを調整し、絶妙な【せせらぎ】を演出しているのだ。

<平成10年5月 完成式>



<平成12年 河川敷改修工事>



完成式は22年前(移転新築12年目)。それにしても、コケの生命力は大したもの、学校を取り囲むコンクリート壁の上部は、すでに黒ずんでいる。

話を2本の橋に戻そう。「米山(よねやま)橋」と「鼎(かなえ)橋」。2本の橋の竣工は、移転新築前年の昭和61年である。この2つの橋の命名は、本校とゆかりのある名称から名づけられたことが、学校に残された記録から想像できる。

本校の開校は、今から遡ること120年前の明治34年。大柳尋常小学校、福田尋常小学校、**米山**(よねやま)尋常小学校の3校が合併して、現在の安戸公民館の地に「**鼎**(かなえ)尋常小学校」として呱呱の声をあげている。

「鼎(かなえ)」と名付けられたのは、3本の足を備えて安定感があり、勲功を後世に伝える器である「鼎」のように「3校合併の実」をあげようと、開校当時の地元の方々の思いが込められているのである。

そして2本の橋の間の「せせらぎの広場」も、地域の方の手作りの賜物である。

常なる磐

つねなる いわ
令和2年10月30日(金)
その2-①

◇ 校歴を紐解く⑤ 記念碑

校内に残る記念碑と石板 等を紹介します。 ご来校の際は、是非ご覧ください。

校歌碑 & 創立60周年記念碑(昭和39年3月)

※文字補修済(表裏) ※モニュメント・土台清掃済

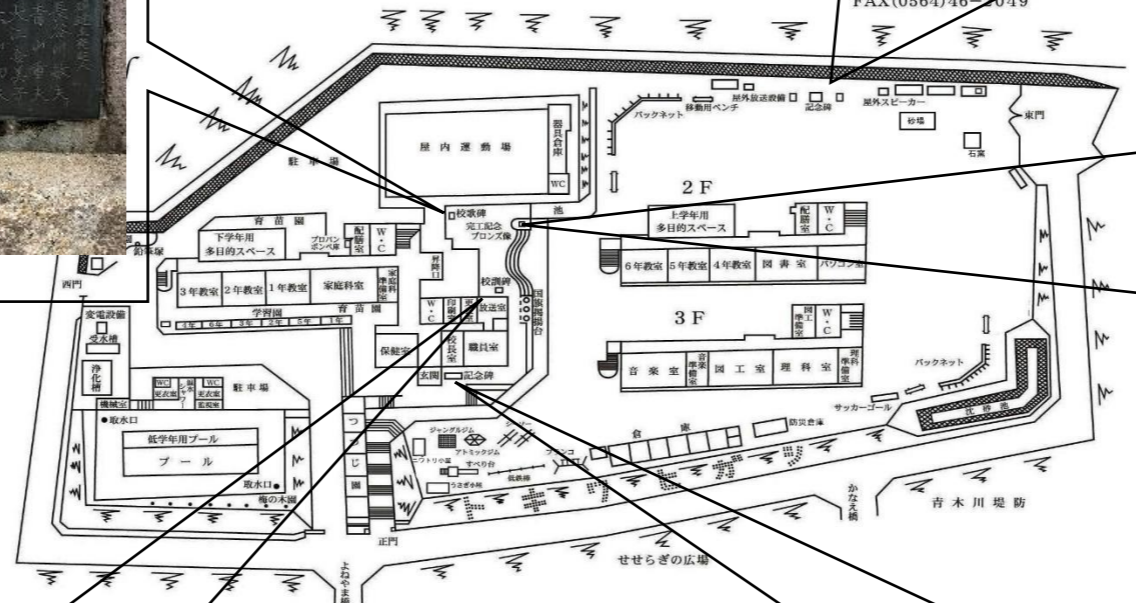


創立95周年・新築移転10周年記念碑(平成8年10月)

※文字補修済 ※モニュメント未清掃



岡崎市立常磐東小学校
〒444-3167 岡崎市米河内町字惣作32番地
TEL(0564)46-2108
FAX(0564)46-2649



新築移転開校記念碑(昭和62年4月1日)

※文字補修済 ※モニュメント未清掃



創立70周年記念碑(昭和47年11月5日)

同窓会発会記念

※文字補修済 ※モニュメント清掃済



創立100周年記念碑(平成13年11月11日)

※文字補修済 ※モニュメント清掃済



常なる磐

つねなる いわ
令和2年10月30日(金)
その2-②

◇ 校歴を紐解く⑤ 石板・その他

校内に残る記念碑と石板 等を紹介します。 ご来校の際は、是非ご覧ください。

鉛筆塚(昭和49年3月)
昭和48年度 PTA 役員寄贈
※未補修



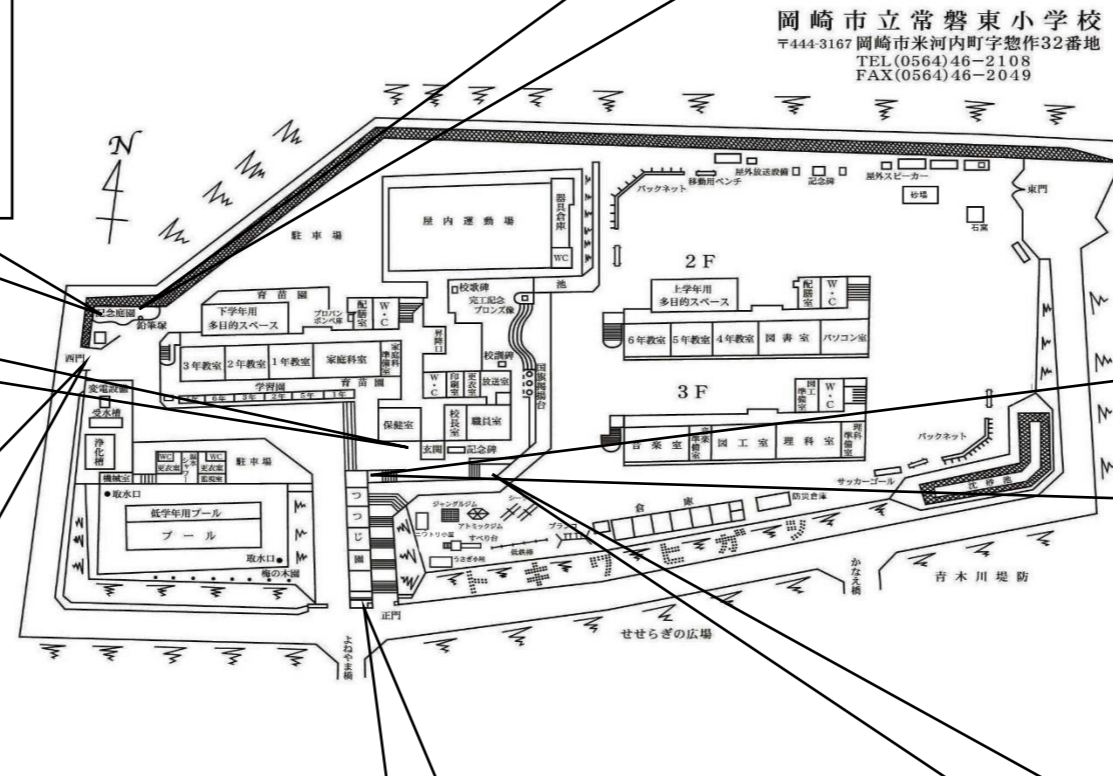
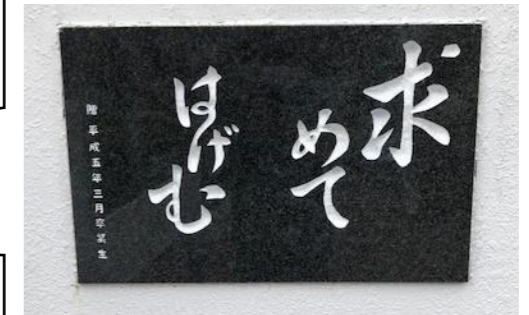
供養塚(建立日不明)
※未補修



日時計(平成2年3月)
平成元年度卒業生寄贈
※未補修



校訓碑(平成5年3月)
平成4年度卒業生寄贈
※文字補修済



校名石板【西門】(昭和62年4月1日)
※文字補修済 ※西門改修中



校名門柱石板【正門】
(昭和62年4月1日)
※文字補修済
※正門改修済



100周年記念学校模型(平成13年11月11日)



常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月30日(金)
その3

◇ 学習発表会から見たもの

保護者の皆様におかれましては、学習発表会を開催しましたところ、新型コロナウイルス感染症禍中にもかかわらず多くの方にご来校いただくとともに、予防対策にご協力いただきながら児童の姿をご参観くださりありがとうございました。

本年は、これまでの「学芸会」ではなく、日々の学習の成果を発表する「学習発表会」として開催しました。発表する演目に趣向を凝らした担任の工夫がありました。1年から3年が行った朗読劇は国語の授業で扱った教材に演出を加えたものです。授業で内容を読み解き、登場人物や動物の心情を理解した上での劇ということもあり、児童の登場人物・動物への感情移入は容易であったと捉えています。さらに通常の学習時間を確保しつつ練習時間の短縮を図り、発表に結び付けることができました。また、発表の方法は単学年ではなく学年団で行うことで、他学年の協力を得て、演劇や合奏、歌唱に厚みをもたせることができました。

- 1年生：堂々とした姿に半年間の学校生活で備えた大きな成長が見えました。
- 2年生：元気のよさが持ち味の2年生の最大のよさを伝えることができました。
- 3年生：登場人物の心情の機微を表現する台詞回しの巧みさに引き込まれました。
- 4年生：篠笛の美しい音色が体育館中に響きました。努力の跡が見えました。
- 5年生：名役者が勢ぞろい。歌唱に、演技に大活躍。本番に強いのは練習の賜物。
- 6年生：全てにおいて最上級。学校を引っ張り、学習発表会を締めてくださいました。

さて、敬体表現はここまで。ここからは、いつもの常態表現に戻すとして。

本校のよさは、少人数ということもあり、誰もが主役となって活躍できる場面があるということ。他校に比べれば子供たち一人一人の役割は多く、スポットライトが当たる場面が何度もある。緊張はするだろうが、堂々とやり切る子供たちは逞しい。そして、子供たちの持ち味をしっかりと把握した担任が、その子が備え、高めた持ち味が最もいい形で発揮できるよう役割を配置していた。こうした小さな配慮が教育には最も重要であり、子供の人間的な成長を加速させるのである。

驚くべきは5・6年の上級生の合奏。演奏楽器は鼓笛隊で扱う楽器と同じ児童は1名のみ。他は全て他の楽器を扱い、聴き応えのある合奏へと結び付けた。

最後に、英語劇に挑んだ2名の児童を褒め称えたい。学校では、体育館で何度も練習する場面を見かけた。必ず練習に付き添う担任、さらにはALTの先生も。練習は本番のように。本番は練習のつもりで。それがしっかり実践できていた。家での練習も欠かさなかったW&H。本番は本当に立派で、自信に満ちていた。

常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月6日(金)
その1

◇ 校歴を紐解く⑥【航空写真】

<1991年(平成3年10月)移転新築5年目> 校長：鈴木秋男先生



<2020年(令和2年6月)移転新築34年目>



29年前(平成3年度)の移転新築5年目の航空写真と6月に撮影したもの(令和2年度)とを比較する。

【予備情報】

- ①児童数 H3：108名(男子49 女子59) R2：47名(男子29 女子18) ➡61名減少
- ②学級数 H3：6学級 R2：6学級 ➡同数
- ③職員数 H3：12名 R2：12名 ➡同数

※ちなみに、移転新築後の最多児童数は、平成9年度の149名(男子86 女子63)。

開校以降の最多児童数は、大正3年度(常磐東尋常小学校)の161名(男子86 女子75)である。

<変化がうかがえる点>

- ①校内外の樹木：撮影された季節は異なるが、29年で明らかな樹木の生長が確認できる。
- ②校舎の色：写真自体の色合いは異なるが、校舎や校内各所の壁の色が異なる。
H3は「真っ白」➡白亜の校舎 R2は「灰色」➡これは塗装の劣化とコケによるもの
校舎の屋根の劣化は激しい。体育館はあまり変化ないように見えるが、現在、雨漏りの修理を依頼中である。
- ③青木川側の校地法面の「トキワヒガシ」の植栽文字の有無。
※植栽はこの翌年(平成4年)に全校児童、職員、保護者によって行われた。
最初の植栽は「お茶」であったが、枯れにより「キンメツゲ」に変わり、現在に至る。
- ④学校前の青木川河川敷「せせらぎの広場」の有無。
※「せせらぎの広場」の完成は平成12年。植栽「ト」の下方の河川敷に降りる階段も平成3年は無い。うっそうとした樹木のように見えるのは山影である。
- ⑤グラウンド体育施設の有無と位置変化
朝礼台やトラックの位置と大きさが異なる。サッカーゴールの位置は南北から東西へ。バスケットゴールが確認できる。児童数の変化により、部活動数も大きく減少した。
- ⑥プールサイド 29年前より現在の方がきれいなのは、改修工事によるものである。
プールの管理棟の屋根の色も、改修工事の際に塗り直されたようで、同等に見える。
- ⑦校内の彩色タイルの色・昇降口前ピロティーからグラウンドに面する曲線階段の色
航空写真の撮影に向けて高圧洗浄機で洗浄したため、現在の方が鮮やかに見える。
タイルに付着するのは砂や泥よりも、圧倒的に「コケ」である。雨が降ると水を含み、滑りやすくなるため、たいへん厄介である。コケを取り除くことで安全性は高まったが、梅雨から真夏にかけて、また一気に増殖する。1年に2回はコケを除去する必要があることが分かった。

校舎の外装はかなりの劣化が見られるが、校舎内は移転新築34年とは感じさせないほど状態がよい。在籍した児童と勤務した教職員が学校を大切に使用してきたからこそ、今の状態がある。感謝である。

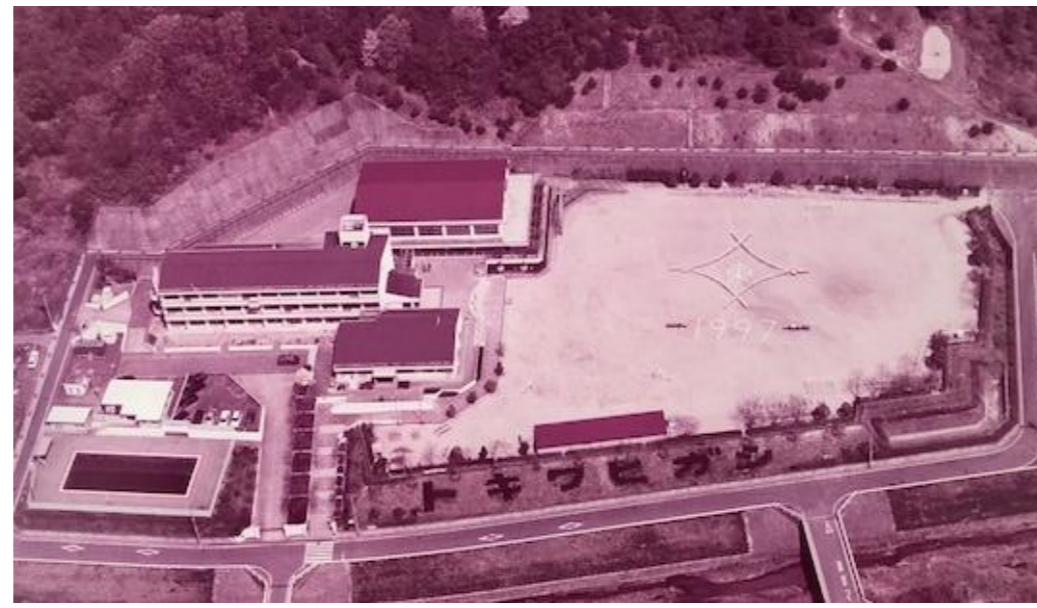
◆裏面にその他の航空写真や比較資料写真を掲載したので、併せてご覧いただきたい。

<1987年(昭和62年)移転新築年>



- ・樹木は幼木である。
- ・アスファルト部分が真新しい黒色。
- ・コンクリート打ちの部分は真っ白である。

<1997年(平成9年)移転新築10周年>



- ・植栽文字が施された。
- ・「ガ」と「シ」の字体が現在(R2)と若干異なる。
- ・まだまだ白亜の校舎

<2001年(平成13年)創立100周年>



- ・桜階段に咲き誇る「桜」が確認できる。
- ・老木桜となった現在と比べ、生氣にあふれている。
- ・若干校舎は黒ずむが、屋根の傷みは見られない。

★西門から見た校舎(昭和62年と令和2年)



- ・現在の校舎が黒ずんで見えるのは、陰ではなく「コケ」である。場所によっては「えんじ色」のシミとなる。
- ・大きな違いは、現在の写真の校舎手前の「なんじゃもんじゃ」の木の向こうに見える「東名青木橋」の存在である。 エアコンの室外機と配管が加わった。
- ・移転新築当時の写真を見ると、左奥に駐車している車の左側に「焼却場」が確認できる。現在は公害対策により撤去され、市全小中学校から姿を消した。
- ・現在の西門と校名石板は、補修により新築当初に近づけた？つもりである。

常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月6日(金)
その2

◇ 校歴を紐解く⑦【一輪車】

1年生の中で「一輪車」が大流行である。上級生がすいすいと軽快に一輪車を乗りこなしているのを見て、触発されたのだろう。赤色体操帽子の1年生が、苦勞して一輪車にまたがり、ジャングルジムにつかまりながらバランスを保つ。これが第一段階。

「一輪車に腰骨を立てて立つ」いった印象。腰が曲がったり、腰が引けたりすると、たちまちバランスが崩れる。「視線を前にして背筋を伸ばす」この姿勢が大事なのである。

微笑ましいのは、面倒見のよい上級生が近くでアドバイスをしているところだ。

4年生のHは、長放課、昼放課と毎時間1年生に付き添う。1年生も助言を受けて一生懸命に取り組むから、教え甲斐がある。

アドバイスをする様子をうかがっていると、ジャングルジムに掴ませながら方向を変えさせている。なるほど。次のステップへと進めるためのポイントとなる指導があるのだ。授業も同じ。すっかり指導者だ。

さて、一輪車置き場を変えた。リサイクル&リニューアルである。旧置き場は、雨漏りが激しい他、扉の立て付けも悪くて開閉すらままならない。そこで、数年来使用しておらず、傷みの激しい兔小屋と鳥小屋に目を付けた。まだ状態のよかった鳥小屋を改修して一輪車置き場とした。前面が網戸で、中の様子が確認できる点がよい。兔小屋は取り壊したが、その結果、遊具は使用しやすくなり、安全面も確保できた。一石二鳥どころではない。一石数鳥である。



「一輪車に乗るコツ」とパソコンで検索すると、乗り方マニュアルや指導法に加え、動画もいくつか紹介されている。4年生までは iPad が支給されて授業で使い始めているが、1～3年生についても、共用ではあるが年度内には配備される予定である。もう少しすれば、一輪車の乗り方を自分で調べたり、一輪車に乗る様子を動画で確認したりといった追究する様子が見られるようになるだろう。

さて、本校での一輪車の歴史を紐解くと、平成2年に吉澤弘真さんから寄贈されたと記録にある。

当時の写真が1枚目（屈託のない表情は、今も同じ）と2枚目であるが、驚いたことに、寄贈していただいた一輪車が今も現役（3枚目写真の左側）で子供たちが利用しているのである。



一輪車の表示にある **PANAGYRO** の記載が同じである。本年度も社教委員会のご支援でタイヤを交換させていただいたが、サドルやペダルの形状や色彩が異なることから、繰り返し修理して現存に至るのだろう。

さらに、多くの卒業生を含めた子供たちが大切に利用してきた証でもある。



ちなみに **PANAGYRO** は、車輪が小ぶりでサドルの位置も低く設定されており、現在は1年生が好んで使用している。

3枚目の写真の右側が第2世代の **FLAMINGO** 。**PANAGYRO** **FLAMINGO** に加え数年前に購入したと思われる最新式の強化プラスチックフレームの一輪車もあり、3種類が活躍している。

平成2年以来、実に30年間。

子供たちのお父さんやお母さんが使用した一輪車もあるだろう。30年の年月を経ても学校に残り、現役として大活躍している。



常なる磐

つねなる いわ

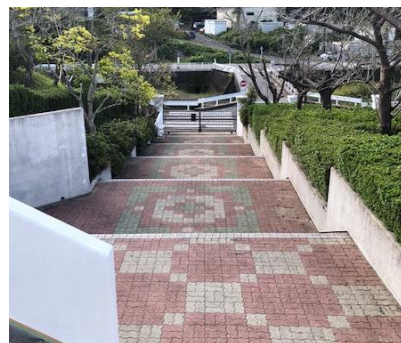
令和2年11月6日(金)
その3

◇ 校歴を紐解く⑧【正門柱】

校地の色鮮やかな樹木や三河地区初の多目的スペースなど、本校の推しはいくつもあるが、中でも一番の推しは【正門の門柱】と【正門から続く階段】である。

門柱は他校にはない特徴がある。ほぼ等間隔に並ぶ4本の柱がある点だ。他校の門柱が2本であるのに対し、本校が4本あるのは、構造によるものである。

青木川沿いに建造される関係上、川の氾濫等の水害から学校を守るために、青木川堤防道路（青木川水面）よりもはるかに高い位置に校舎やグラウンドを建設している。当然のことながら坂は必要となるが、かといって急勾配の階段は子供たちのことを考えると設けられない。よって、なだらかで長い階段が設けられ、その階段の向こうに校舎があるという構造となったのだと考えられる。



さらに、雨水の排水を考慮すると、水の流れる経路数を増やすとともに、経路の幅をもたせる必要がある。こうしたことから、児童の歩く道の幅を確保しつつ、その横に車道の通用門を併設したと考えられる。



こうして、児童の通学用の歩道の左右に2本、さらに車道の通用口の両側に2本、計4本の門柱を配置したと考えられる。実に贅沢だが、まさに【顔】である。



※門柱・門壁 修復中の写真（撮影：10月上旬 再塗装中 下塗り後の様子）



学校の【顔】であるがゆえに、創立120年・移転新築34年を節目として門柱と門壁の修復を行うことにした。修復の経過を以下に示す。

<門柱>

①



- ・最初の作業は「校名石板の文字の再塗装」である。
- ・マスキングテープである程度の覆いをした後、ラッカースプレーで塗装する。堀面が荒く、塗装が剥げやすいので三度塗りをする。
- ・塗装が乾いたらマスキングを取り、カッターナイフの刃で表面を研る(はつる)ように動かすと、文字以外の余分な塗料が削り取られる。
- ・仕上げはラッカーシンナーで汚れを取る。

- ・次の工程は校名石板のマスキングである。
- ・マスキングフィルムは DAISO で購入。110円。

②



- ・塗装用のローラーも試してはみたが、塗装面に凹凸があり、ムラがしやすい。よって、刷毛を使用した。
- ・風雨の影響を受けやすい赤➡部分は、塗装がほとんど剥がれており、コンクリートの地の部分も風化劣化の状態にある。よって、必要に応じて重ね塗りを行った。
※塗装が活着している部分は厚めに一度塗りをすればよい。

③



- ・壁用の「仕上げ塗料」と「下塗り塗料」は、明らかに性質が異なることを塗装して実感。
- ・下塗り塗料を塗った面は「マット感」が強く、上塗りをした仕上げ面は、太陽光が当たると光沢を出す。晴れた日は輝いて見え、雨露を浴びると浮き上がるように白さが際立つ。
- ・「雨の日は、ごまかしがきかない」
塗装が劣化しても、晴れた日は太陽光によりそれなりに見えるが、雨の日は汚れが際立つ。
「雨の日は、ごまかしがきかない」のだ。

以上で門柱は仕上がりだが、安全性を考慮したトータルで考えると、補修が必要な部分がある。青➡の門柱下のコンクリートである。

6月に高圧洗浄機でコケを取り除いて一旦は白くなったが、10月にはご覧のようにコケが付着した状態になる。このコケが増殖すると雪面のように滑るのだ。

そこで、コケを取り除くのではなく、コケが付着しにくいように塗装を施すことにした。塗料もコケの特性を考え、門柱の塗装に使用した水性ペイントではなく、油性ペイントを使用した。このコンクリート部分の塗装は、壁面修復のため公務員の山田さんに行ってもらったが、写真④のように大変仕上がりがよい。

④門柱修復完了



<門壁 その1>



・写真を見てもらえば分かるが、左は雨天時に撮影したもの。汚い部分は、より汚く見える。

・劣化が激しい部分は写真のように部分的に補修し、その後、下塗りに入る。必要に応じて重ね塗りを行う。



- ・壁の黒ずみは、コケが沈着したもの。
- ・コンクリート部分は新たに発生したコケ。(雨天時撮影)

<門壁 その2>

◆補修前➡➡

◆高圧洗浄後➡

◆塗装後



学校を取り囲むコンクリート壁の一部(門の周辺の赤口)の補修を行うことで、視覚的効果により門を大きく見せている。

<新生白亜の正門修復完了>R2.11.2 雨天時撮影 「雨の日は、ごまかしがきかない」



常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月13日(金)

◇ 学校創立120年・移築新築34年記念式典に向けて

4年間にわたり、粛々と進めていただいた「常磐東小学校創立120年ならびに移築新築34年記念行事」の準備が整い、15日(日)の当日を迎えるだけとなった。

実行委員の皆様をはじめ保護者の皆様、ここに至るまで様々な形でご協力をいただいた関係各位に対し、心より感謝を申し上げたい。

さて、記念式典となると、かしまった「大人のまつりごと」のニュアンスが強い。節目となる価値ある式典であるが、参加する子供たちにとっては、大人の難しい話をきくだけの「我慢の行事」になりかねない。そこで、実行委員会にお願いし、子供たちが参加する【常磐東っ子120年宣言】と【鼓笛演奏】を次第に組み入れていただいた。さらに、いずれも全校児童が参加する形で式典に臨むようにした。

手前味噌ながら、この二つが実によい。心が温まる。

前年度末から、こつこつと地道に練習を重ねてきた上学年(4年生以上)の【鼓笛演奏】であるが、新たに3年生の鍵盤ハーモニカが加わり、音に厚みを増した。さらに、音楽の授業で練習した1・2年生のカスタネットのリズム演奏を加味させることで、全校演奏を可能にしている。まさに学習の成果と継続した努力の合わせ技である。

リズムに合わせた動きも見逃せない。練習を重ね、ぴったり動きが合ってきた。

敬老会の開催方法の変更で機会を失い、学習発表会でも見送った『演奏披露がやっとできる』と、子供たちも待ちに待った最初で最後の鼓笛演奏発表でもある。

【常磐東っ子120年宣言(内容は学校だよりに掲載)】は、常磐東の未来に向けた「子供たちの発信」である。

中根岡崎市長様や安藤教育長様、歴代校長先生をはじめとする来賓の皆様を前に、子供たちが「ひ」「が」「し」に合わせた宣言文を、声高らかに堂々と宣誓する。

大げさなものではない小さな動きだが、宣誓時には「振り」もある。しかし、これを見事にやってのけるのは、学習発表会の経験が大きい。

聞くだけではない、聴覚と視覚に訴える宣誓である。これが心を温める。

「大人のまつりごと」ではない【子供たちが主役】の式典。

これが、今回の「常磐東小学校創立120年ならびに移築新築34年記念行事」なのである。